

2024年度 国税専門官／労働基準監督官／財務専門官 本試験（基礎能力試験） 講評

No.	科目	出題内容	正解	正答率※	講評
1	文章理解 (現代文)	内容把握	5	A	<p>【文章理解（現代文）】 例年どおり、内容把握4題、空欄補修1題、文章整序1題、計6題の出題であった。内容把握のNo.4は、肢2・5のいずれが正解肢かで迷う受験者もいたかもしれない。しかし、今年度の他の内容把握問題も然りであるが、本文説明から確実に読み取れることを根拠として正解肢をいかに早く選べたかが肝要である。空欄補充、文章整序は正解肢が選びやすい問題であったといえよう。</p> <p>【文章理解（英文）】 例年より1題少ない4題で、内容把握2題、文章整序1題、空欄補充1題の出題であった。内容把握の難易度は低く、正解できた受験生も多かったと思われる。一方で、残りの問題は難易度が高かった。特にNo.10の空欄補充問題は、文章量が少ないものの高い単語力が要求される難しい問題であった。</p> <p>【判断推理／数的推理】 判断推理：今年の判断推理の問題は、合計7題（No.11～17、このうち1題は空間図形の認識）出題された。全体的な難易度は標準的であるものの、昨年度比で若干易しくなり、解きやすい問題が多い印象を受けた。特に、No.11の論理の問題とNo.14の対応関係の問題は、Kマスター数的処理に掲載の例題と同等レベルの問題であったためか、正答率も8割以上と高かった。また、毎年出題されている位置関係の問題がNo.13で出題されたが、傾向を把握して対策をしっかり行っていた受験生が多かったのか、正答率がおおよそ7割とこちらも高かった。それ以外の問題でも、4割以上の正答率でかなりの難しさを感じる受験生は多くなかったように感じる。補足すると、No.16の第3部の各班の組合せと、No.17の正面図、背面図からの見取り図の選択は、考えられるケースを消去法で絞っていくと正解を導くことができる。しかし、筆者が講義などを通じて感じたことを伝えるなら、消去法が苦手な受験生が多い印象がある。No.16、No.17ともに正答率は5割前後だったことから、消去法で解くことに対して抵抗のある受験生が一定数いたと思われる。数的推理：今年の数的推理の問題は、基礎能力試験の出題数減少に伴い、合計4題（No.18～21、このうち1題は平面図形の計量）出題された。全体的な難易度は標準的であるものの、判断推理と同様に昨年度比で若干易しくなった印象を受けた。また、LECの教材や国家専門職の本試験で出題された問題と類似の問題が含まれていた。これらの教材や過去問を使って対策をしていた受験生もいると考えられることから、類似問題の正答率は高いと思われるが、実際には失点している受験生が多くいた。No.18の確率の問題は、Kマスター数的処理P.224例題1の問題とかなり類似（ボールの色や個数に違いはあるものの、ほぼ同様の設定）、No.21の比・割合の問題は、過去問解きまくり①「数的推理・資料解釈」P.92必修問題や、昨年度の国家専門職 基礎能力試験 No.23と類似していたが、いずれも正答率はおおよそ5割に留まった。結果的に、LECの講義や教材で出てきた問題、本試験で過去に出題された問題をマスターすることの重要性を再認識する機会となった。</p> <p>【資料解釈】 今年の資料解釈の問題は、昨年度と変わらず合計3題（No.22～24）出題され、全体的な難易度は標準的であった。No.22は非常にベーシックな問題で正答率は8割以上と非常に高かった。No.23は資料解釈であまり見慣れない図が、No.24は表とグラフが1つずつ与えられていたが、これら2題で多くの情報から処理するために必要なものを見極め取捨選択できるかが、今回のポイントである。</p> <p>例えば、No.23肢1であれば、前年比の増減を調べるのに、各年の○の人数を全部足し参加者の合計値を出して考えるのではなく、「翌年○、前年▲」もしくは「翌年▲、前年○」となっている部分の前年の値だけを使い増減値を出すと時間短縮につながる。（2020年～2021年の増減なら（+182）+（-190）=-10となる。）</p> <p>ただ、どちらの問題も正答率は5割を超えていたので、受験生が各々最低限の工夫を行ったうえで正解を導いていたように思う。</p> <p>【時事】 今年から試験制度が変更されて、時事は5問で、宇宙開発、我が国の経済や財政、宗教、資源・エネルギー、社会情勢からの出題である。宇宙開発は従来からよく出題されるテーマであるが、人文科学の知識でも選択肢が絞り込める平易な問題である。我が国の経済や財政は、国家公務員を志すのであれば是非得点しておきたい。宗教についても人文科学の知識が融合された問題なので、比較的容易な問題といえる。資源・エネルギーについては、自然科学の知識でも正誤を見分けることができる選択肢もあり、正解肢を見出すことは難しくはない。社会情勢については、社会科学の知識も使え、公務員試験の時事問題としては典型的な問題といえる。いずれの問題も基礎レベルから標準レベルの問題なので、5問中4問以上は正解しておきたい。</p> <p>【情報】 今年から新たに出题される情報の出題は、初年度だけあってかなり基礎的な内容となった。もともと、人事院が事前に公表していなかった表計算からの出題だったためか、多くの受験生が正負の符号を取り違える誤りをしていて非常にもったいなかった。</p>
2		内容把握	2	A	
3		内容把握	1	A	
4		内容把握	2	A	
5		文章整序	3	A	
6		空欄問題	1	A	
7	文章理解 (英文)	内容把握	3	A	
8		内容把握	3	A	
9		文章整序	4	C	
10		空欄問題	2	C	
11	判断推理／ 数的推理	論理（論理式）	1	A	
12		文章題	4	A	
13		位置関係	4	A	
14		対応関係	3	A	
15		数量推理	1	B	
16		対応関係	5	B	
17		投影図	1	B	
18		確率	4	B	
19		速さ	5	B	
20		平面図形の計量	2	A	
21		比・割合	5	B	
22		表（実数）	3	A	
23		表（実数）	4	B	
24		表・グラフ（構成比）	5	B	
25	時事	近年の宇宙開発	4	A	
26		我が国の経済や財政の動向	2	A	
27		宗教などの動向	5	B	
28		資源・エネルギーなどの動向	3	A	
29		最近の社会情勢	1	B	
30	情報	表計算	2	B	

※ 正答率（A：60%以上、B：40%以上60%未満、C：40%未満）は、LEC公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』の国税専門官のデータ（5/31時点）に基づいて算出しています。本成績診断のご利用方法等の詳細は、LEC公務員Webサイトの専用ページ（<https://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/>）にてご案内しています。



KL23775